



能登やさしいこめづくり情報 4

中干し編

令和3年5月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
J A おおぞら

今回のポイント
その2

圃場周辺の雑草を一掃し、カメムシ被害を未然に防止!!

1 生育概況

田植え作業は順調に進み、田植え盛期は5月6日（前年より1日早い）となっています。5月以降、気温は平年より高く推移しており活着は良好です。

今後1ヶ月の気温は平年より高く推移することが予想されることから、分けつの発生が旺盛となり、茎数過剰となる恐れがありますので、下記に基づき、

①「適期中干し開始」と②「ほ場周辺の除草の徹底」に努めましょう。

今回のポイント
その1

田植え1ヶ月後から、中干し開始で未熟粒の発生抑制!!

中干し開始は田植え1か月後!

○中干し開始までの水管理

✓ 2~3cmの浅水管理で分けつの発生を促進

田面が露出しない範囲で浅水管理を行い、できるだけ地温を上げて分けつの発生を促進しましょう。

✓ 中干し前に軽い田干しの実施

好天時に軽い田干しを1~2回実施し、ガス抜きを行い、根の健全化を図りましょう（刈取り直後の秋起こしにより、稲わらの腐熟が促進され、ガス湧きは抑えられます）。

○中干しの実施

✓ 田植え後1か月を目安に中干し開始

詳細は裏面を参照して下さい。

中干しの効果・意味

- 無駄な分けつの発生を抑制し、過繁茂を防ぎます。
- 秋の実りを助ける根が発達し、稲の活力を高めます。
- 根を地中深く張らせることにより、倒伏を防ぎます。
- 田面が固くなり、コンバイン収穫の作業性が向上します。

➡ 未熟粒やくず米の発生減少



白未熟粒（乳白粒）

○畦畔、農道等の除草の徹底

✓ 6月中にほ場周辺の草刈りを徹底

✓ 一斉草刈り強化週間（7月4日~10日）に仕上げの除草を実施

✓ 7月10日以降は除草しない

7月10日以降の除草は、逆にカメムシをほ場に追いやります。（やむを得ず除草する際は、仕上げ防除直前に実施して下さい。）

○圃場内雑草の除草（必要に応じて）

✓ 中・後期除草剤の使用

ほ場内雑草は、カメムシをほ場内に引き寄せる原因となります。

R2年度斑点米による落等率7.1%
早生品種・コシヒカリで落等要因の第1位

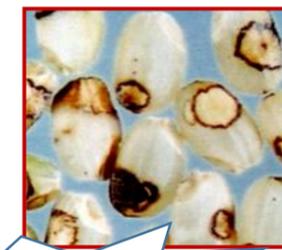
対象雑草名	除草剤名	散布量	留意点
ノビエ、オモダカ、クログワイ等	アトリ1キロ粒剤 1成分	1kg/10a	・湛水散布（7日間止め水） ・移植後14日（稲5葉期）~ノビエ4葉期（収穫45日前まで）
ノビエ	水持ちの良いほ場 ヒエクリーン1キロ粒剤 1成分	1kg/10a	・湛水散布（7日間止め水） ・移植後15日~ノビエ4葉期（収穫45日前まで）
	水持ちの悪いほ場 クリンチャー1キロ粒剤 1成分	1.5g/10a	・湛水散布（7日間止め水） ・移植後25日~ノビエ5葉期（収穫30日前まで） ※発生しているヒエのみに効く
マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズカヤツリ、オモダカ等	バサグラン粒剤 1成分	3~4kg/10a	・落水して散布 ・移植後15~55日（収穫60日前まで）

※能登③④①たんぼづくり運動によるエコ栽培のため、本田除草剤の化学合成農薬成分回数は合計『4成分以内』を目標とし、適正な水管理で除草剤の効果を最大限いかしましょう。



R2年度多発!

斑点米



等級を下げる原因

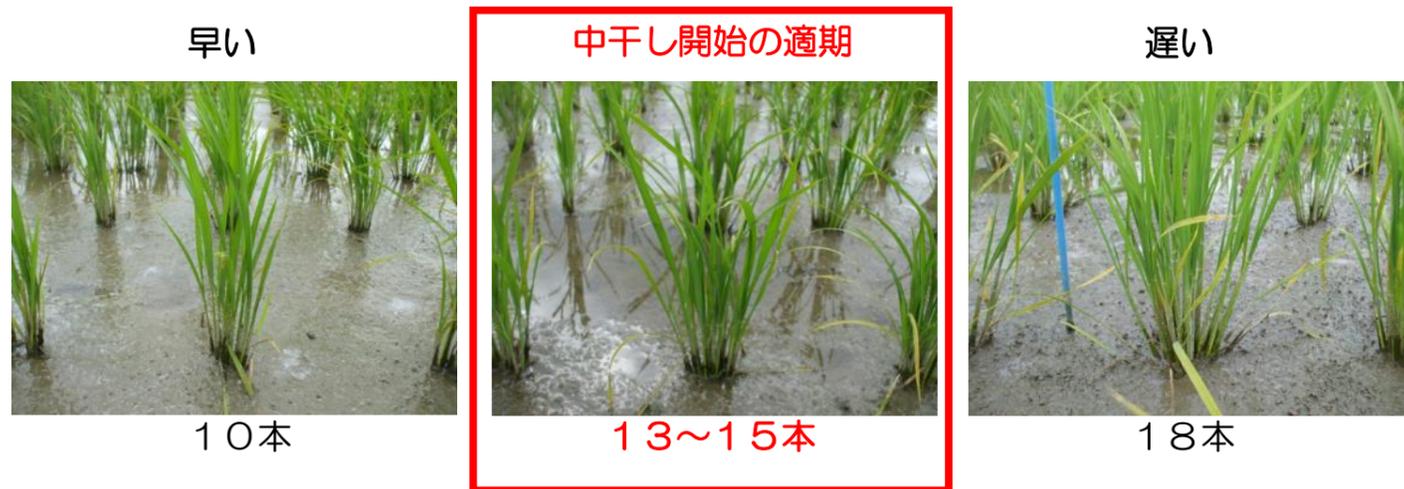
【農薬の適正な使用について】

ラベルに記述してある使用方法以外の使い方をすると法律で罰せられます。
安心・安全な農産物を提供するという気概を持ち、使用方法は厳守して下さい。

2 中干し作業の詳細について

①中干し開始・終了の目安

✓赤枠で囲った株が中干し開始の適期です。時期を逃さず実施しましょう。



品 種	開始時期		終了時期	開始・終了時期判断の注意点
	1株あたり 茎数	平 年		
コシヒカリ	15本	6/6頃	7/10頃	<ul style="list-style-type: none"> 田植え後1ヶ月を目安に、遅くとも左記の茎数に達した時期に中干しを開始して下さい。 コシヒカリは中干しを1ヶ月継続しましょう。 中干しは幼穂形成期まで継続します。中干し終了時期は左記を目安にして下さい。 ※田植え後の水管理により、ほ場毎に分げつの発生に差が生じるので、圃場をよく観察し、中干しを開始しましょう。
能登ひかり	13本	6/8頃	6/30頃	
(根 抛)	目標穂数の70%時点 (コシヒカリ 21本 能登ひかり 18本)		幼穂形成期	

②中干しの程度

ほ場条件	程度と方法	開始時期と継続期間 (平年の目安)	留意点
一般田	田面に小ヒビが入り、軽く足跡がつく程度	※上記のとおり	※葉色が濃い場合や分げつの発生が止まらない場合は、期間を超えて中干しを継続して下さい。
高地力田・湿田・生育過剰田	強め(大きな亀裂を入れない程度)	一般田よりやや早めに開始し、やや遅めに終了する	
漏水田・砂質田・用水不足地域	田干し程度	一般田と同様	

3 溝切り作業の実施について

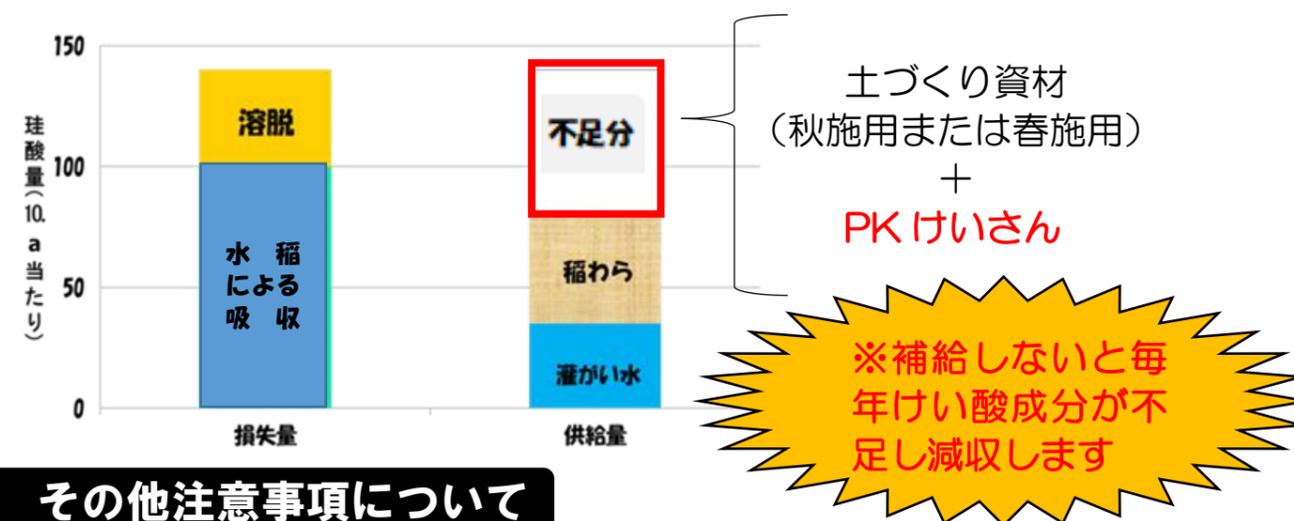
✓溝切りの効果：均一な中干しの実施、中干し以降の通水・排水作業の効率化

- ・10条に1本の割合で溝を切りましょう(目安)。
- ・落水1~2日後に溝を切り、6月中旬に同じところを切り直しましょう。
- ・額縁や水がたまる部分には溝切りを実施して下さい。

4 中間追肥の施用について

- ・近年は高温や日照不足といった登熟期間の天候の変動が大きく、品質の低下原因となっています。
- ・気象変動に強い稲づくりのポイントは、**根をしっかりと作り、活力を高め、維持すること**です。そのためには、「中干し」により、働く根を作るだけでなく、**土壌に必要な成分を補うことが重要です。**
- ・**基肥一発肥料だけでは稲の生育に必要な成分が不足するので、必ず施用しましょう**(「BB けい酸パワー・コシー発くん」を施用した場合を除く)。
- ・水稻は、「けい酸植物」とも言われ、10a 当たり600kgのお米を収穫するために、**けい酸を100kg程度吸収します(下図)。**

肥料名	施用時期	施用量	効 果
PKけいさん	6月中旬	40kg/10a	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 稲体が強固になり、病害虫抵抗性、耐倒伏性が向上 ➢ 根張りや受光態勢が良くなり、登熟が向上



5 その他注意事項について

- ① 補植苗を本田に放置すると、いもち病の発生源となります。早急にほ場から取り除き、処分して下さい。
- ② 病害虫や雑草が発生した際には、随時防除対応が必要となります。コシヒカリの場合、能登米栽培基準を満たすよう農薬の使用にあたっては、最寄りのJAにご相談下さい。